

## 五重塔

法輪館の五重塔は、細部まで精巧に作られた国宝である。一見すると、最近作られたように見えるが、実は部材の大半は奈良時代に作られたものである。高さはわずか 5.5 メートルだが、内外装ともに実物の五重塔の建築様式や組物を完全に再現している。

築年数が経過していることもあり、いつ、何のために建てられたのか、正確なことは分かっていない。光明皇后（701-760）の要請で作られ、元は元興寺の小塔院に納められていたものと思われる。長年、元興寺境内南東部にあった塔の 10 分の 1 の模型と考えられていた。しかし、1927 年、塔の基壇を調査した結果、両者の寸法が大きく異なっていることが判明し、この説は否定された。

もうひとつは、この塔が実物と同じ機能を果たしていたとする説である。五重塔はインドの仏舎利塔に由来し、釈迦の遺骨を守るために建てられた。同様に、日本の五重塔も仏舎利（ぶっしやり）と呼ばれる仏教の遺物を納めるために建てられたものである。この舎利塔は、奈良の多くの寺院では東西に並んでいるが、元興寺の場合、東塔だけが記録されている。したがって、西塔に安置されていた小塔は、大塔の模型ではなく、建造物そのものであった可能性がある。現在、この小塔には、1966 年にスリランカから寄贈された寄贈された仏舎利が納められている。